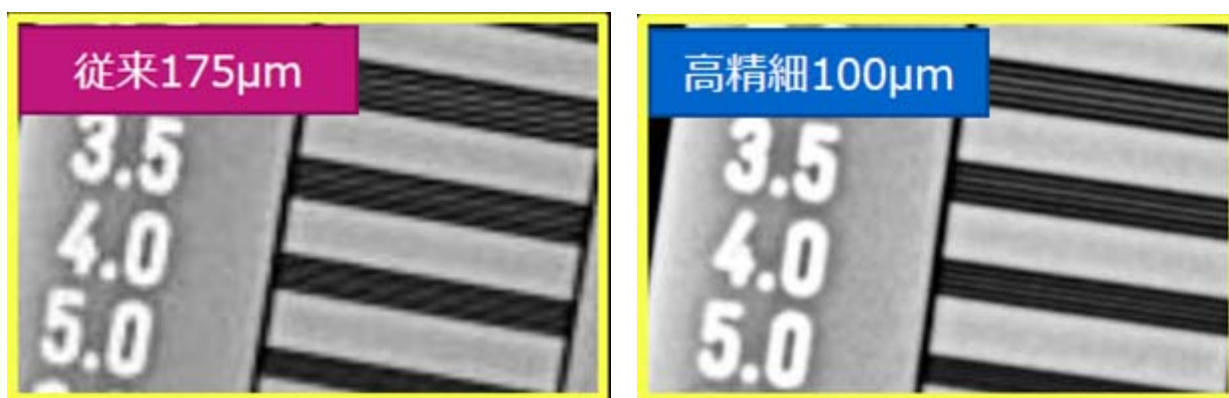


## 「AeroDR fine」の主な特長

### 1. 細かい部分も見やすく

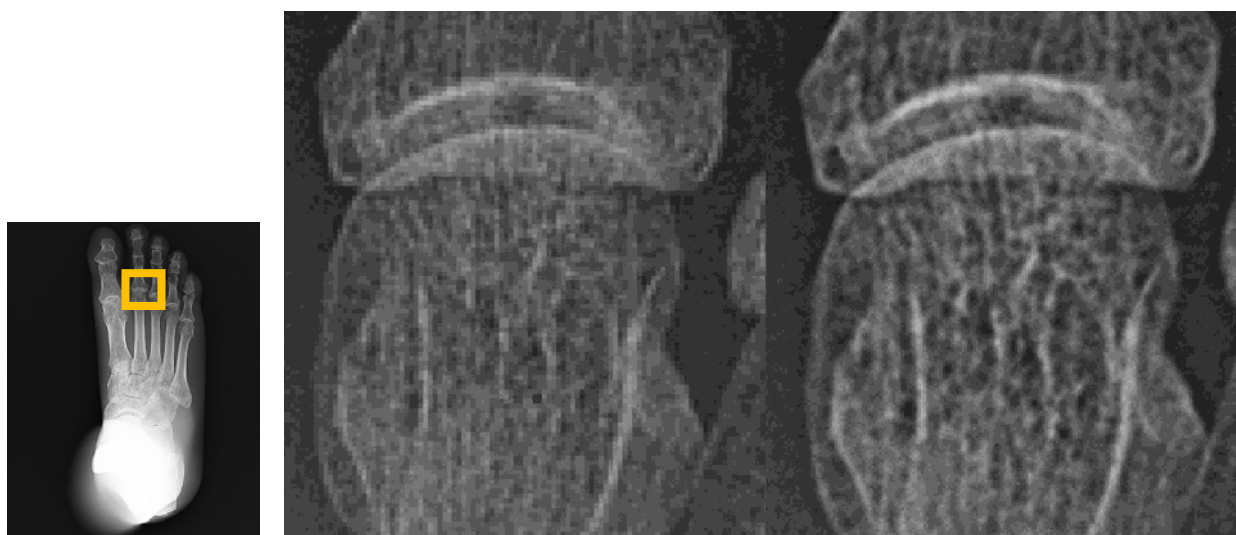
「AeroDR fine」では、センサーパネルのサンプリングピッチ(画素サイズ) 100 $\mu$ mを実現し、世界最高レベルの解像能を達成しました。これにより、整形領域における手指骨画像などの微細構造を拡大表示する際、従来よりも格段に見やすい画像を提供いたします。



従来 AeroDR

AeroDR fine

サンプリングピッチの比較 1



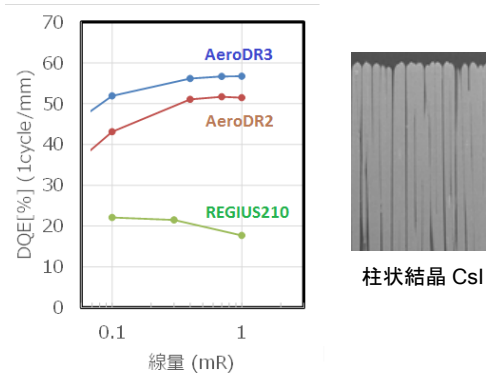
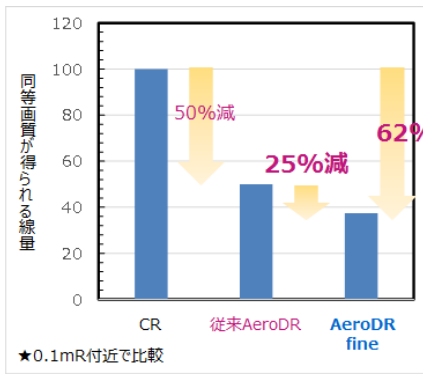
従来 AeroDR

AeroDR fine

サンプリングピッチの比較 2

### 2. 安心して安全な診断をサポート

コニカミノルタの「AeroDRシリーズ」は、高いX線光子検出効率(DQE)とダイナミックレンジの拡大により、かつてのX線フィルム撮影やCRの約50%のX線照射量でも高画質の診断画像を得ることができます。



今回「AeroDR fine」では、コニカミノルタが培った独自の柱状結晶蒸着技術により、X線吸収層である柱状結晶CsIを従来以上に厚膜化しX線利用効率を増大し、また新型低ノイズ読み出しICにより電気ノイズを従来の半分以下に低減することで、従来モデル以上のDQEを達成し、さらに照射線量を低減することができます。

また、「AeroDR fine」は、発売5年で世界販売台数10,000台以上の実績をもつ「AeroDRシリーズ」で採用されているリチウムイオンキャパシタ<sup>※</sup>を採用しています。リチウムイオンキャパシタはリチウムイオン二次電池に比べ安全性が高く、過充電、落下衝撃などに起因する発火の心配がなく、過去、「AeroDRシリーズ」においても発火の事故はありません。

<sup>※</sup>キャパシタとは、静電容量（キャパシタンス）により、電荷を蓄えたり放出したりする電子部品の総称であり、日本ではコンデンサとも呼ばれている。

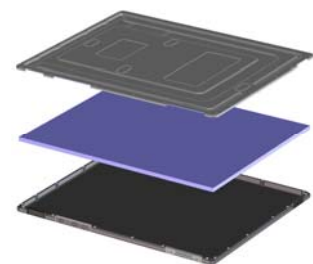
### 3. 撮影現場での使い勝手と作業効率を追求

「AeroDR fine」では、「AeroDRシリーズ」の取扱い性をさらに向上させました。

病室の撮影では、撮影時に患者とベッドの間に本体を挿入します。片手で患者を支え、片手で本体の抜き差しを行います。その際、女性のX線撮影技師でも楽に取扱いできるように軽さと、抜き差しのしやすさが求められます。

「AeroDR fine」は、最軽量である2.6kgの軽量設計を維持し、更にハンドリング向上のために本体背面の全周に凹み部を設けて指がかけられるようにしました。上部のハンドルライクな深い凹みは、持つときに必要な握力を約40%低減します。また全周の凹みは、引き抜き時の必要な握力を約20%低減します。これにより、片手でも本体をしっかりホールドすることができ、本体の落下を防ぐとともに、抜き差しの際に腕に掛かる負担も少なくなり、撮影作業時の効率化も期待できます。

さらに、フロント板から端部側壁までの5面を一体的にCFRP(炭素繊維強化樹脂)で整形した「スーパーモノコック筐体」を開発することで、従来と同等の重量を維持しながら、耐荷重性能を400kgまで、耐落下性能を1.2mまで向上させています。



「AeroDR Fine」は、「デジタルラジオグラフィー SKR 3000(製造販売認証番号:228ABBZX00115000)」の呼称です。  
「AeroDR PREMIUM」は、「デジタルラジオグラフィー AeroDR SYSTEM2(製造販売認証番号:226ABBZX00050000)」の呼称です。  
「AeroDR」は、「デジタルラジオグラフィー AeroDR SYSTEM(製造販売認証番号:225ABBZX00011000)」の呼称です。